サカタニ友の会ニュース　とんからりん

発行者
株式会社サカタニ
集酉楽サカタニ
ファミリーマート
サカタニ京阪七条店
〒605-0993
京都市東山区日吉町222
（七条こころ坂）
TEL・075-561-7974
URL www.sosake.jp/
Eメールinfo@sosake.

月刊 発行会員新聞
編集酒谷義郎

ビール離れ止まられず

上記の見出しの記事が、1月17日の毎日新聞経済欄に掲載されていました。内容は、ビール大手5社の昨年度出荷量が前年比2.5％減り1992年以後で最低の記録だとの事。数年前からビール紛いの ビール味の発泡酒や缶酎ハイ」が発売され、所得の低い、青年層がそれを飲む様になった事も影響していると思われます。

私は、昭和初期、酒場チェーン店を創っていた祖父の代から酒屋三代目。戦前、ユニオンビール　**現アサヒビール）**のセールスさん　**坂倉氏？）**が、祖父や父 の傍で話をしている傍で聞いていた。

その頃の縁で、父が戦後**（昭24）**、酒問屋」を始めた時。占領軍の 独占禁止法」で麦酒会社は三社（朝日・麒麟 ・日本　**現札幌）**しか無く、朝日麦酒の 特約代理店」になった。当時は、三菱系の 麒麟麦酒」はシェアも低く、関西では『朝日』。関東では『日本　**現サッポロ）**』が、圧倒的に優位を占めていた。

その二社は、元々 大日本麦酒（株）」だったが、占領軍の財閥解体政策で、東と西に分割された。従って、ビールのシェアは、名古屋以西は 朝日麦酒」名古屋以東は 日本麦酒（現サッポロ）」と二分割のローカル化された。シェアが、低くい麒麟麦酒（株）は、分割されず全国ブランドで残った。（麒麟優位の原点）

終戦直後は、酒類市場は、日本酒が圧倒多く、ビール市場は狭かったが、朝鮮戦争が起こり、米軍軍人が多く来日。それに比例して国内の麦酒市場が拡大市場も拡がった。が、食べ物や飲物は保守的な物。日本に来たからと言って 日本酒」には直ぐに馴染めない。かと言ってアルコール飲料は飲みたい」そこで日本のビール」が急増したのだと思う。

当時のメーカー別では、アサヒ40％・キリン31％・サッポロ12％戦後参入のサントリー16％だった。一万、日本国内では洋風料理」が、好まれて来た。かと言ってアルコール飲料 バーボン」や スコッチ」より飲みなれた ビール」が増えた。

戦後のビール会社は、朝日と麒麟とサッポロの三社だったが、どの会社も、甲乙を付けられないほど良いビールだった。

一万、戦後、米不足で日本酒醸造制限されて 焼酎や合成酒」が多く飲まれた居たが、世間が落ち着くにつれ。麦酒を飲む人が増えた。それで、味醂焼酎が主力の、伏見の 宝酒造」もビール醸造を始めた。が、既存のアサヒ・サッポロ・キリン・のメーカー各社が、宝ビールを売るなら、特約店から外す方針をだした。既にビールは、日本酒以上の需要が有り、既存の特約を解除される危険を冒して 宝ビール』を売らない姿勢を取った。（私共の会社も）

戦前、伏見の四方**（ヨモ）**酒造の名で 松竹梅」と言う銘柄から出発し、サントリーと並ぶ酒業界の王者双璧の 宝酒造」の大失敗で撤退。向日町の宝の ビール工場」は、麒麟ビールの工場になった。我家も祖父母の代、四方酒 造と取引が有り。祖母きぬに、 一連の話をすると、

祖母**（写真）**は、 程々の限度を越して欲ばらはったなぁ。」と言い、10貫は持っても10貫百匁は持てない事もあるさかい。お前も、欲ばりをしなはんなや」と言いました。以後、私は、9貫目で満足すると決めています。

第3日曜日開催日1月21日（定例:朝9時）

第156回：朝粥食べておシャベリ会

ご講演：塩澤文男さん・（報告者）高木英智様

◎テーマーは**「いのりを通して自分を知る～巨大仏画制作の現場から～」**

ご講師はアートディレクター
画家の塩澤文男さん62歳。

本日の講師は、アートディレクター、画家の塩澤文男さん62歳。テーマは「いのりを通して自分を知る～巨大仏画制作の現場から～」

1年半前に東京から京都へ移る。32歳のとき、岡本太郎さんへのインタビューで、常人ではとらえられない感性に触れ、弟子に。京都に深くかかわるようになったきっかけは絵を貸してほしいと申し出た若者との出会いから。礼をしたいけどお金がない、京都が京都であり続けるために人が来るように再生したいと、お坊さんを紹介され、恩師岡本太郎さんもかかわった仏縁を得る。300年間保管するという申し出に応え、酷暑の42度や、火災防止のため真冬の石油ストーブ禁止といった過酷な環境で仏画制作に打ち込む日々。こどもたちに制作現場を見せることも力を入れ、こどもたちは先入観がなく、本物を見抜く力がすごいと。絵が売れるのもうれしいことだが、こどもたちにそういう生き方や、好きなことを継続する心を持っことが大切なことであり、それがアートの役割だというモデルケースを示せるのがうれしいと。東京から京都に移って変わったことは手を合わせること　祈ることが恥ずかしくなくなった。宗教のセクトをこえて祈ることの大事さを知った。京都は祈りでできあがった町。もう一度復活をと願い、共同制作では筆致が異なるので、全部ひとりで制作。

制作現場を見ることはなかなか得られない貴重な機会なので、よろしければ妙覚寺までお越しください。

毎月七日・恒例：七条大橋をキレイにする会

○日時：三月七日（水）

◎集合：七条大橋　東詰南

作業時間　AM9時～10;30

◇掃除用具：手箒・雑巾・小さいスコップ等は各自ご持参等ご持参くだい。

◇終了後 集酉楽サカタニ2Fにて小一時間**程**お茶を飲み反省会

写真・毎回ご参加の清掃協力中のフラリーパッドのお二人様です。

どんつき

▽私は、尋常小学校の最後の入学生。翌年から国民学校になり、敗戦の翌年で旧制中学に入学しました。

▼入学はしたが、先生が 追放」で、ころころ代られ、授業もない日が何度も有り、入学時15円？の授業料が高卒時1200円。

▽学制も中学2年生時633制に代わりました。大人の世界は超インフレ時代で大変だったが、子供たちは仲良した。

▼敗戦直後で、軍人学校から転入したきた年長の生徒もクラスに数人おり、暴力でクラスを仕切ろうとしました。

▽2．1ゼネストが起ろうとしていたころです。それに対して他の友人達が 団結」し、集団で抗議し止めさせました。

▼後、担任の先生がクラス雰囲気変化に先生が気付かれ、グループの仕組みを 組運営」に取り入れられました。

▽名を 裸木会」と付けたその会、先生が没された後も存在し、今も、年1～2回開催されています。友人中に 一人欠席無しが居るのです。

▼最近は 同窓会」などない所が多い様です。私等の年代は小・中・高校であります。戦中戦後の苦しい時代を共に、学び遊んだからでしょう。

▽ 友有り、遠方より来る、また、楽しからずや」と私も出来る限り参加しています。が、恩師は全てお亡くなりになってしまい生徒だけ。でも激減です。。

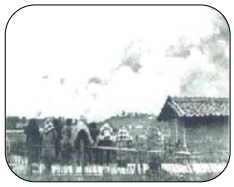
▼が、最後の 校歌合唱」には、先生が笑顔で、その場に居られる様に思えるのです。

※今号は発行が遅れ申し訳ありません

なんだ坂こんな坂 ⑰

今は、ビルに建替えたが、その前は、京町屋特徴の細長く奥行きが深い家。七条に面した「母屋」と奥の蔵の間に小さな池がある庭先。横の渡り廊下で、蔵の二階と繋がる。その北側は、着物、屏風、貴重品を入れ「ガラガラ」と名の物入、南側は、通常は父一郎の部屋。隔離出来るので、病人が出た場合は、病室に使われていた。

私の一番幼い時の記憶は、その部屋の窓から聞こえる爆発音で目を覚ました時。「お祖父ちゃん、何の音」と聞くと「校方火薬庫が爆発（写真）してる、又、赤の仕業らしい」と言い、前に木幡の火薬庫もやられた、赤は怖い奴らだ」と言い、隣りのS着板屋の子（稔ちゃん）と、遊んだらあかんぞ」と加えた。



理由はSさんはアナキスト？で、自店の表看板に、日本空軍機が、敵弾で墜落している絵を書き、掲げ「カ」で警察に逮捕されたからだ。数日後、同家は、引越しされ空家になった。その家を祖父が購入、「酒場」に建替え、番頭の「新吉」とんに、嫁を世話し、「国民酒場」の運営を任せた。その新さんは、結婚後、兵隊にとられ戦死、子の無かった嫁は、里に帰り、酒場は、祖母が主で営業を続けた。昭19年末頃から、飲食店用の酒が無い時代が有り、「国民酒場」も休業をした。昭20年敗戦直後の九月一日、徴用で広島付近の工場で被病し、我店創業者祖父喜一郎が58才で亡くなった。当時の相続法で、長男の父一郎が、家督相続をした。祖母きぬや、父の姉も極僅かの相続だったようだ。

酒販業は、醸造から販売まで、昭和13年から「酒税」の関係で「大蔵省の管理下」になり「醸造から販売」まで。「免許」が要る様になった。煙草や塩も民営から専売局に同時期に移された。それ迄は、どこでも売れた酒が、販売免許制になり、「企業整備」を「錦の御旗」に、（昭14？）廃業を強いられる店も多かったらしく、大蔵省から、廃業整備委員に任命されていた祖父が、お国の命令だけれど（強制的）廃業通知書」を対象の店の店にお渡しに行くのが辛いと嘆いていた。酒、煙草等の免許制は、若干変ったが現在も有る。

祖父は優しい人で、何度も岡崎動物園や、魚釣りにに連れて呉れた思い出す。今は我が、爺々なのに。

稲荷山ぶらり散策記 ㊳

越智薫史

年に違わず伏見稲荷大社は初もうで客で賑わっています。地元商店街の皆さんはお正月休みどころではありません。家族総出の大仕事の時期です。初もうで客は外国人は少なく、圧倒的に日本人ですから、店頭に並ぶ土産物も日頃とは少し様子が違うようです。昔からある煎餅屋、饅頭屋、神具店などが売れ筋のようです。

ところで12月15日に京都市が2016年の観光消費が京都市内に与えた経済波及効果を発表しました。効果は1兆1772億円で市内生産額の1・4倍で、市は「観光産業が京都経済の活性化に大きく寄与していることが裏付けられた」としています。

これだけを見ていると大変結構な事ではありますが、不安なことも多くあるように思います。観光を経済指標だけでみれば京都市の評価の通りと思いますが、京都市民の日常生活との関係では問題が山積してきているようです。民泊問題、ホテルの建設ラッシュ、観光資源の維持保全等々。京都の観光文化が大きく変わってきています。古き良き伝統ばかりにこだわることは出来ないかもしれませんが、観光産業とは何か」をもう一度原点から考えてみる必要があるようです。京都市民全体が観光客を気持ちよく迎え入れ交流する文化をつくらなければ京都観光の将来は危ういものになってしまいます。目先の東京オリンピックをにらんで京都観光を金儲けだけで考えていては限界があります。

幸いに今年は戊年です。戊年生まれの人はつぎのような性格の人が多いそうです。今年はこれでいきましょう。

誠実で真面目な性格。頑固で自分の評価はめったに変えることがありません。用心深いところがありすぐには心を開きませんので時間がかかります。

この人と決めれば一途に身をていして献身的につくします。恩や義理を重んじる律儀な部分もあります。12月から冬型の気圧配置が続き、この伏見からは西山の雪景色がしばしば眺められます。この地には昔からたくさんの鶉が棲んでいて鶉の里と呼ばれていました。この時期に詠まれた句を紹介しておきます。

狩りにこし鶉の床の荒れはて
冬深草の野辺ぞ淋しき
後鳥羽院

護上人作の尊像がある。ただ近年、墓地造成のためか竹藪がかなり切

お知らせとお礼

※この欄は、例月、石動敬子様のご原稿を掲載させて戴いていた「欄」でございました。が、ご投稿がなく慌てて石動様に、確認致しますと、12月で投稿を終る通知したと仰りました。ご連絡を見落したのでしょう。昔風に言うと私も84歳、ボケが来たのでしょう。

石動敬子様、長い間、ご投稿のご協力を賜り有難うございました。厚く御礼を申し上げます。

この後も、時折で結構ですが、ご投稿を頂戴出来れば嬉しく存じます。

編集者　酒谷義郎

なんだ坂こんな坂 ⑯

⑮で書きましたが、小学2年生迄、祖父母に育てられ、貞教尋常小学校に入学も祖母と一緒でした。当日は雨降り、校門を入ると、6年生のお方が、傘預かり係で、祖母が近所の「オーツルヤ」さんのお嬢さんだと教えて呉れました。同店は、京都で1番早く、現金廉価販売を始められたお店でした。今で言う「スーパーマーケット」の先駆者でした。

随分年月の過ぎ私が大學一回生時、バイトをした京都市商工局外郭団体の「公開経営指導協会」にご参加なさっていて、随分と「商売の原点」をお教え戴きました。そんな事から、京都は狭い町、近所付き合いを第一にすべきと心しながら、今に至っています。

もう一つの例は、今月一六日午後3時、碑前で献花祭を実施する「馬町瀑撃之地」の碑です。

東日本大地震の際、昔に建立された「石碑」のお陰で、多くの人が助かった事をTV放映で知りました。もの言わない石碑が、有り無しで、多くの人の命が助かるか、助からないと別れることあるのだと知りました。

そして「馬町瀑撃」を思い出しました。丁度その頃、宇治市の住まいを売り、旧修道小学校区「馬町」に移転したのです。

空襲をされなかったと思われている京都市で多数の死傷者をだした空襲は「西陣と馬町」。その西陣には、慰霊碑が早くに建立されていたが、「馬町」に無いと気付きました。それは、早くから知って居ましたが、他学区の住人が言う事ではないと思っていたのです。その爆撃の学区の住人になり、親しい人も出来ていたので「馬町瀑撃之碑」建立を提案をしました。同じ想いを持っておられた方も多く、とんとん拍子に、話は進み、多くの寄付金も即、集まり「碑の建立」が出来ました。同時に、以後も毎年、一月一六日の、爆撃の有った日に「献花の集会」をする事も「自治連合会」で決まりました。今年も、一月一六日三時から旧修道学校内「碑前」献花祭が実施され多数のご参加が有りました。

京都&東山ぶらりピカリ 77

七条通（しちじょうとおり） 京都の通り ㉘

豊臣秀吉公御墓所 太閤坦

七条大橋から真東を見ると、こんもり美形の山、東山三十六峯の一つ「阿弥陀ヶ峰」が見えます。七条通りをその方向に進むと、智積院山門。直ぐ北に「豊国廟参道」

（写真）の石碑。これは明治13年（1880）、この道の先豊臣秀吉の墓所豊国廟（ほうこくびょう）が修築時のものです。指示通り坂道を進むと「京都女子学園」が有り、通学路で多数の女子学生生徒が往来します。それで今、坂は（通称）女坂」と呼ばれています。登下校時間は、余程心臓が強い男性で無いと、一人で歩き難い程の女性ラッシュになります。

更に、新日吉（イマヒエ）神社と学校と神社に道を更に阪を東へ、そのドンツキの、石階段上の鳥居をくぐると広場が有ります。そこが「太閤坦（タイコウダイラ）」です。現在の広場状態は、一部駐車場になっています。が、過ってはこの秀吉公を祀る「豊国神社」が有った場所と聞いています。櫻の木が多く、近くの人達が、お花見に来られる隠れた「花見の名所」です。私の子供時代、毎年、番頭さんから丁稚まで隣近所の人にも加わって貰い毎年「お花見会」をしました。又、戦後の少年時代は絶好の遊び場、「ターザン」や「インディアン」ごっこ」で、山を駆け回っていました。**今は子供の姿はマレ。**

その太閤坦から「阿弥陀が峰」山頂（**563**石段（写真下）を上ると、豊臣秀吉公遺言で造営の豊国廟（写真上）が有ります。建設当時の神社と、徳川家康に破壊され、豊臣秀吉公の墓も300年ほど放置されてましたが、明治天皇の意向その明治13年（1880）に現在の姿修築されたそうです。

その石階段の中程に御門（写真・中）が有ります。恐らく身分で上下で、ここで区分けし、下は、ここで待せたのだと思います。

私は、**年一・二度、この石段**を登り、墓所も、お参りはしますが、主目的は体力テスト。休まず一気に何段迄上れるかので自分の体力測定をするためです。

大病した年を除き毎年でしたが、昨年は後二十段残してバテました。歳には勝て無いのかなぁ?です。

85才になった今年はダ。年寄のに冷水」にならないように、気を付けながら、気候の良い五月頃挑戦の予定です。**ご一緒に兆戦の、お方歓迎・詳細は5月号告**

市電が走った京都を巡る 84

福田静二

東山三条を出発した市電は、東大路通を南下して行きます。交差点からすぐのところで、東西に横切る細い道を通ります。これが、かつての東海道です。

今の三条通が、東海道だと思われ勝ちですが、前回にも記しましたが、この付近の三条通は、昭和になってから新設・拡幅されたもので、この通りが京と江戸を結んでいました。

市電から見える風景は、三条通まで見られた寺院はもうなく、小さな商店が並ぶようになります。そのなかで、いまも健在な鉄道模型店に記憶が甦ります。小学校のころ、小遣いを握りしめて、自転車でよく訪れたものです。もうひとつ、市電時代には、西側に“ゲテモノ屋”があったものです。古道具店なのですが、“こんなものまで”と思うような品々、店の二階まで積み上げられていて、道行く人が珍しそうに眺めていました。さらに、市電時代から、人気を保ち続けているのが、カバンなどのオリジナルバッグを造っている※一澤帆布店で、当時から、店の前で入店を待つ列ができていたものです。その後、お家騒動のあとに分かれた店もできて、観光客で活況を呈しています。

東大路通の筋東に平行しているのが、古川町商店街で、昔から食料品や日用品を扱う店が続いていました。以前ほどの活気は見られませんが、テレビドラマのロケに使われる店などもあって、賑わいを取り戻しつつあるようです。

そして、まもなく到着するのが、知恩院前」の停留場です。交差点の前の道を東へ行くと、すぐに白川を渡る石橋があります。白川の清流と川沿いの柳が、京都らしさを感じさせ、付近には、川床や、千日回峰行を終えた行者が、京の町に入洛するとき最初に渡る行者橋もあって、観光客で賑わいを見せています。正面には、知恩院の古門が見えます。華頂学園の校舎に囲まれた、華頂通を上がって行くと、知恩院の境内に突き当たります。

知恩院は浄土宗の総本山です。承安五年（一一七五）、浄土宗開祖である法然が東山に草庵を結び、布教を行ったのがその始まりで、弟子の源智によって諸堂が建てられ、知恩院大谷寺となりました。「知恩」の名は、弟子達が法然の恩に報いるために行った知恩講」に由来します。江戸時代になると、浄土宗に帰依した徳川家によって現在の大伽藍が築かれます。

知恩院での見ものは多くありますが、有名なのは、わが国最大の二重門である三門（山門）でしょう。元和七年（一六二一）に徳川秀忠の命により建立されました。高さ二四メートル、屋根瓦は七万枚、「華頂山」の額は畳二畳以上もあり、御影堂とともに国宝に指定されています。ほかにも、大晦日に除夜の鐘で撞かれる、知恩院の大鐘は、日本最大級の大梵鐘として広く知られています。僧侶が最大限の力を振り絞って、独特の作法で鐘を打ち鳴らします。生活感のある街並みと、知恩院の伽藍が調和を見せる、知恩院前でした。

知恩院前に到着した市電

東大路を南下する市電

何んだ坂こんな坂⑱

相続で引継いだ二軒で開業した東側のうどん屋「めん坊」も、西側の酒小売株・サカタニも順調に売上利益は伸びた。酒卸業に携わっていた時のルートで業界の情報が先取り出来たお陰だ。古家との二軒家は、使い勝手が悪いと一つのビルにしたいと思っていた。

其処へ銀行が貸す相手を探す程の不景気が来た。建築不況も重なり、ビル化の見積りを数社で取り、横田建設で現在のビルを建て新建た。

借入を返せる程の仕事に「コンビニ」ファミリマートを選んだ。交渉相手は、後に、同社常務になられた市原譲氏、氏が、ビル設計詳細原案と資金の低額利子提供で協力して下さったから。

三階は住居、二階は別会社で「うどん屋の東山めん坊」にした。

建設前の段階から、⇒新聞折込と建設用の囲いの上にクイズ付宣伝（賞品はワイ旅行をした。開店当日の売上目標を三百万円にして。開店当日は、それを越した。この記録は、ズーと後、東京湾横断橋にファミマの店」が出来る迄、破れられなかった。

少し逸れるが、広告は成果を上げなければ役に立たない。それには、説明ではダメで見た人の頭の中に、強い印象を与える事が大事。我社の「考えないと判らない」広告は、近くの京都女子学園でも話題になり、開店日に、ご来店の学生も多かった。そして30年後も多く来てくださる。

この方法は、青年時代、政治運動に、強く深く関わって居た事があり、その頃の経験を生かした。内容を書くと「公安条例違反」の恐れの集会の有る告知チラシで、場所と時間と大きな「?」マークのみ書き配布、常より多くの参加者があったのだ。「?が何か」と確かめたい人が多いから。強く説明するより、興味を持って貰う方が効果が有るだろうと思ったから。

今月で85歳になった私。青年時代の事は「とんからりん」には書か無かった。でも、その頃の、経験があって今が有ると思う。差し障りのない範囲で、これからも書こうかなぁと思っている。

ブルームーン

頴頴史子

ブルームーン」という言葉を、聞いたことがあるでしょうか？一月に二度の満月が起こる、その二度目の満月を、俗にブルームーン」と呼んでいます。

最近は同名のビールも販売されているので、お酒をたしなまれる方には馴染みのある言葉かもしれません。ブルームーン」という名前のビールは、アメリカで一九九五年から製造されている、ベルギースタイルのクラフトビールです。オレンジピールを原材料につかっているため、爽やかな香りと少し甘い口あたりがあり女性に人気です。このビールの名前の由来を調べたところ、滅多にないこと」を意味する英語のことわざ「ワンス・イン・ア・ブルーそうムーン」からつけられたようです。

一月に二度の満月が起こることは、滅多にありません。しかし、月の満ち欠けの周期は29.530985日と一月の長さより短いため、何年かに一度は、一月の中で満月が二度起こります。去る一月三一日は、そのブルームーンでした。

しかもこの日は、満月になる時刻に皆既月食が起こり、とても珍しい赤いブルームーン」になりました。

今年は、もう一度ブルームーンを楽しめるとても貴重な年です。ブルームーンは、二～三年に一度の頻度で発生しますが、一年に二度のブルームーンが発生するのは十九年に一度しかありません。貴重な次のブルームーンは、三月三一日。この日も、月が満月になる時刻が日本では夜のため、お天気がよければまん丸なお月様を観測することができるでしょう。

滅多にないブルームーンだけに、この月を見ると「幸せになれる」という言い伝えがあります。

東山出身のミュージシャン、フラリー・パッドは、そんな幸せパワーあふれる満月を見上げた時の気持ちを、曲にしたためました。ブルームーン」という名前のその曲は、きっと春の満月の光のように穏やかであたたかく、そしてオレンジ香るビールのように爽やかで甘く、皆さまの心に響くことでしょう。

月二十五日雪 月三天

朝目が覚めると、雪が積もっていましたね。市内では初めての積雪では無いでしょうか？氷点下四十八度の寒気が南下し、日本全体が寒さに覆われています。他の国々も、昨今の異常気象にまいっていて、北の方の国々では、出歩いていた動物がそのままの形で凍ってしまうほどになっています。

氷点下四十八度がそのまま地上に降りてきたら、日本はどうなってしまうのでしょうか？氷点下二度でエアコンの効きが悪くなるのですから、きっと住めるものでは無いでしょうね。北の国々のような防寒具もなく外に出られるはずも無く。ライフラインも止まるのでしょう。

水道管は氷点下四度で破裂するそうです。今朝は氷点下三．六度まで下がったそうなので、危ないところでした。日中洗濯物を外で乾かしていたら、洗濯物が凍って氷柱ができていました。凍ってから暖かい部屋で乾かすと、乾きがいいような気もしていましたが、こうなるとお話は別です。余分な水分を落とし切らない内に凍ったため、午前中に干した時点の水分をそのまま維持していることでしょう。

こうなってみると、花粉症は嫌ですが、早くあたたかくなって欲しいなと春の訪れを願わずにはいられません。鳥が飛び、蛹から脱却した虫が成虫になって飛び回る。花が咲き良い香りを空気の中に包み込ませ、太陽が生き物を暖かく迎え入れる。何と素晴らしいのでしょうと考えてしまいますね。冬が厳しくなった分、春は希望に満ちています。

暖かくなったらどこに行きましょう？何をしましょう？寒い間できなかったことは何でしょう？やはり、何かをするには冬と夏以外。今ではもう短くなってしまった春と秋この時間を大切に使わなくてはいけないと、つくづく思った次第です。

この文章がお手元に届いているのは二月。一体どうなっているのでしょうか？

（おわり）

編集後記

▽2月で221号のとんからりん」ですが、1月に続いで、10日以上大幅にお届けが遅れました。申訳ありません。

▼とんからりん」だけでなく、日常でも単純なミスや物忘れが多く、自分は、無意識ですが、周り方に、ご迷惑を、お掛けています。

▽昨年辺りから、その傾向が強くなり、今や85歳になり「高齢者障害」が始まったのかも知れません。

本人は、マダ大丈夫と思っていましたが。

▼耳は、少し？遠くなりましたが、先々月の検査では、裸眼で左右1.5でした。新聞も少々無理すれば老眼鏡は不要です。若い時に酷使しなかった成果でしょう。

▽主たる事業は、年中無休ファミマです。深夜～朝勤の勤務者に「苦労さん」と声を掛けるので、6時半店」に入り、序でにレジ締め等の実務もします。

▼元々は酒屋で配達もしており、百年その繋がりを残そうと友の会をつくり会員様に「とんからりん」をお届けしながら今になりました。

▽残念ながら歳には勝てず、誤記入だけでなく人様に失礼、ご迷惑を事を書きました。もう限界と思い、**3月号以後、月刊発行を随時に変更と思案中です。**

▼ご投稿者様、社内でもマダ相談せず未決定すが。